

平成 29 年度第 1 回北海道地域の教育支援活動推進研修会(道央会場) 報告書

【道央】平成 29 年 7 月 4 日(火) (札幌市・道庁別館地下 1 階大会議室 他) 参加者：102 名

1 説明「地域学校協働活動及び放課後児童クラブの方向性について」

説明者 石狩教育局教育支援課社会教育指導班主査

清水 秀 紀

石狩振興局保健環境部社会福祉課子ども子育て支援係長

村 下 理 佳

学校と地域の効果的な連携・協働の在り方や、ニッポン一億総活躍プランを踏まえ、放課後児童クラブの受入児童数の拡大、支援員の人材確保の必要性等について説明がありました。

参加者からは、「基本的な事項について学ぶことができた」「コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の国や道の動きについて理解することができました」「放課後児童クラブと地域のつながりの大切さを実感できました」などの感想が寄せられました。



2 講義「学校と地域の連携・協働について」

講師 生涯学習推進局生涯学習課生涯学習センターグループ主査

尾山 清 龍

学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校がパートナーとして連携・協働していくことの大切さや、地域の中で、より幅広い層の住民や団体等の参画を促すために、今後ますますコーディネート機能の充実が必要であること等について、近年の国の動向や全国の優良事例等をもとに説明がありました。

参加者からは、「学校と地域の連携の大切さを理解できた」「地域みんなで子どもを育てていくことが重要だと思った」などの感想が寄せられました。



3 選択研修

A 演習「子どもの体力向上につながるプログラム」

講師 石狩教育局教育支援課社会教育主事

尾形 行 亮

タオルや新聞紙などの身近にあるものを使った運動や、狭い場所でも簡単にできる体力向上プログラムを紹介しました。また、全国調査の結果から、道内の小・中学生の体力・運動能力、運動習慣等の傾向について説明がありました。

参加者からは、「子どもの気持ちになって楽しむことができました」「ジャンケンゲームや鬼ごっこのバリエーションなど、楽しく簡単にできるゲームばかりで、すぐに現場で実践したい」などの感想が寄せられました。



B 演習「自然体験・外遊びを促すプログラム」
講師 国立大雪青少年交流の家企画指導専門職

是安 聡一郎 氏

自然体験や社会体験、家庭でのお手伝いなどの体験活動の有用性の説明や自然にあるものを生かした外遊び、各活動場面に潜むリスクとその対処方法に関する演習を行いました。

参加者からは、「子どもの頃の様々な体験が、大人になった時に意欲やコミュニケーション力の差になって表れることに驚いた」「子どもたちにたくさんの体験をさせたい」「野外のリスクとその対処方法や今後生かしたい」「外を目隠して歩くことで、仲間との信頼感を高めることができた」などの感想が寄せられました。



C 演習「音楽・リズムを楽しむプログラム」
講師 劇団風の子北海道 中島 茜氏・信清敬子氏

「キャベツはキャッキャッキャ」「むすんでひらいて」「ひらいたひらいた」など、子どもが夢中になる手遊び・わらべうたや、「しんぶん相撲」「落ちない新聞紙」など、新聞紙を使った遊びを体験しました。

参加者からは、「アイデア次第で身近なものが遊び道具に変わることを学びました」「テンポがよくて大人も楽しめる内容だった」「劇団員から教わることは新鮮だった」「プログラムの進行役となった時の立ち居振る舞いも勉強になった」などの感想が寄せられました。



D 演習「子どもの読書活動プログラム」
講師 読み聞かせボランティアにじいろ代表

神原 慶子 氏

安定した本の持ち方やページのめくり方、声の大きさ、子どもたちとの位置関係など、読み聞かせの基本的な技術や、対象年齢、読み聞かせを行う場所、時間、季節、天気等に応じた本の選び方などに関する演習を行いました。

参加者からは、「楽しく本と触れあえた」「選書のコツを学ぶことができた」「本の世界に引き込まれました」「これまでは同じ本を繰り返し読むことが多かったですが、これからは教えていただいた本の選び方や読み方を参考にしたいです」などの感想が寄せられました。

